

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部 創立10周年に寄せて

(46)

「今年はこのくらい花が咲いているだろうか。木々はどんな表情を見せてくれるだろうか」と、植生の観察や森林浴の日が楽しみです。参加者の新たな出会いや交流、これまで気づけなかったことの発見や驚きなど、何度足を運んでも訪れるたびにそんな感動があります。自然それ自体が持つ魅力です。「楽しむ」ということには、親しみや気づき、発見など多様な感動が凝縮されています。

【執筆者プロフィール】
仙台市在住、六十一歳。一九八六年、仙台森林管理署に勤める傍ら、自然に親しみ緑を大切にという仲間たちと「緑を守り育てる宮城県連絡会」を創立。事務局長として運営・企画・実施に情熱を注ぐ。「楽しい企画は、みんなを楽しくさせる」が活動のモットー。温厚な人柄が組織や活動を弾みあるものになっている。

「今年はこのくらい花が咲いているだろうか。木々はどんな表情を見せてくれるだろうか」と、植生の観察や森林浴の日が楽しみです。参加者の新たな出会いや交流、これまで気づけなかったことの発見や驚きなど、何度足を運んでも訪れるたびにそんな感動があります。自然それ自体が持つ魅力です。「楽しむ」ということには、親しみや気づき、発見など多様な感動が凝縮されています。

緑を守る活動は楽しい

宮城県仙台市 佐藤 修

野外では植生調査、植林地の下刈り、間伐、樹冠投影図の作成、野鳥観察、キノコの観察も行います。これまでに二百人ほどがこの講座を修了し、宮城県内の森林環境教育の指導者として中心

野外では植生調査、植林地の下刈り、間伐、樹冠投影図の作成、野鳥観察、キノコの観察も行います。これまでに二百人ほどがこの講座を修了し、宮城県内の森林環境教育の指導者として中心

また、五年前には林野庁の「遊々の森」制度を活用し、「二口学習の森」を設定しました。仙台市太白区にある西部蔵王国定公園の三方倉山(標高九七一)の中腹から麓にかけての馬場岳国有林三十一・三杉を、自然観察会や林業体験などに利用しようとするものです。

こうした自然への親しみや愛着を持った人たちが、かけがえのない緑を次世代に伝えていくため、私たちは一九八六年に「緑を守り育てる宮城

後半の十年は「森の案内人」養成講座など人材育成に力を入れて取り組みました。九八年から始めたこの講座は年間十回開講し、座学のほかに

この学習の森には、ここに暮らしてきた人々の営みの跡をうかがい知ることができ、人々と森・林業のかかわりをまとめたいと考えています。三年くらいかけて炭焼き窯跡、植生、湧水、巨木の各種調査を実施し、調査結果を集大成した「マップ」に仕上げる試みです。

「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」

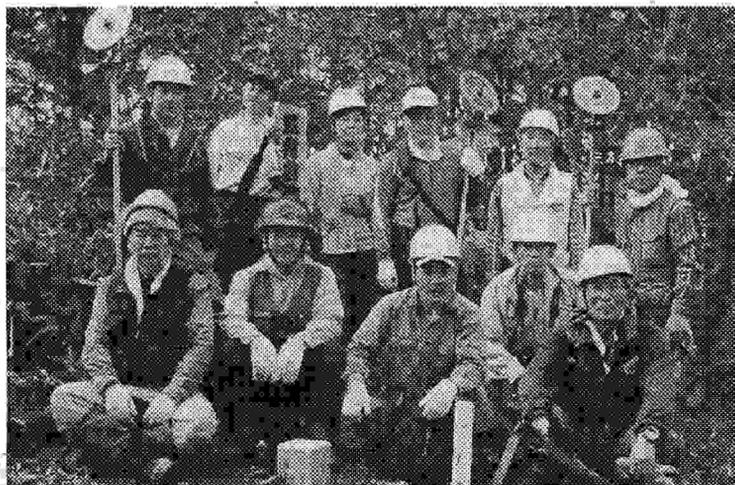
「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」

「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」

「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」

「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」

「五葉山自然倶楽部が活動の基本に据えている「親しみながら楽しむ」



ボランティアの仲間たちとともに三方倉山に登山道を整備(後列左が筆者)